

土木防空資料

1-1-2 空襲目標 (昭 17. 4)

重要都市を目標とするも、又工業、交通、通信の各要點、軍事其他の重要施設、動力源及重要物資の産地等をも目標とする。主なる目標及目的を表示すれば次の様である。

| 主なる目標 | 主なる目的 |
|-------------------------|---------------|
| 軍需工場及生産工場 | 軍需及民需生産力の減退 |
| 發電所(堰堤、水壓管、發電所、變電所等) | 動力源、照明源の減少 |
| 鐵道(停車場、線路術工物、車輛、車庫、倉庫等) | 輸送力の減退 |
| 通信(電信電話局、交換局等) | 通信の破壊停止 |
| 重要物資の産地(鑛山、事業場等) | 資源の枯渇 |
| 港灣(岸壁、倉庫、船舶等) | 輸送力の減退 |
| 飛行場 | 作戦力及輸送力の減退 |
| 石油及「ガスタンク」 | 動力及燃料源の減少 |
| 水道(水源池、浄水配水池、唧筒所、主幹路等) | 市民生活の脅威及消防の妨碍 |
| 軍需品倉庫 | 作戦力の減退 |
| 軍官衙及兵營 | 作戦の妨碍 |
| 軍港及要港 | 作戦及輸送妨碍 |
| 政治經濟官公衙 | 政治經濟遂行妨碍 |
| 都心繁華街 | 市民の攪亂 |
| 都市住宅地 | 市民の攪亂 |

昭和 15 年 5 月 10 日獨軍の白蘭侵攻後の 1, 2 箇月の空襲概況を調査すると英軍が獨伊に對して爲した空襲は 5 月中飛行場 9 回、港灣 3 回、石油「タンク」3 回、交通機關 27 回であり、獨伊軍が英佛に對して爲した空襲は飛行場 24 回、港灣 11 回、石油「タンク」6 回、交通機關 4 回であり、英佛軍は獨軍の電撃作戦を妨碍する爲に交通機關を最も多く空襲し、獨伊軍は英佛軍の輸送及作戦を妨碍する爲に飛行場及港灣を最も多く空襲してゐる。6 月中には英佛軍は獨伊に對し飛行場 33 回、港灣 6 回、石油「タンク」30 回、交通機關を 23 回空襲し、又獨伊軍は英に對し飛行場 28 回、港灣 38 回、石油「タンク」4 回、交通機關を 11 回空襲してゐる。空襲には爆撃及焼夷彈が主で瓦斯彈は用ひられてゐない。次に土木構築物を目標として如何に爆撃するかの一例に就て、某氏は輕爆ならば線路術工物には隣發の 50 疋及 100 疋爆彈で術工物の中央を狙ひ、線路ならば直徑 6 米及 9 米の範圍を破壊する。停車場の轉轍器、列車等に對しては線路術工物破壊と同じものを用ひ、建物、機關庫、車庫等には延期爆發の 50 疋及 100 疋爆彈を用ひて破壊し之が復舊に相當長時間を要する如く破壊する。又重爆ならば、鐵橋には 250 疋乃至 500 疋爆彈で橋脚、橋桁を破壊し、線路には 100 疋乃至 200 疋爆彈で長さ約 12 米を破壊する。鐵筋「コンクリート」の建物には 100 疋爆彈、大建築なれば 250 疋爆彈で數階を貫通して爆破せしめ火災を期待する。飛行場には延期爆發の 100 疋爆彈を滑走地域平等に投下し離着陸を不可能ならしめ、又格納庫には隣發の 100 疋乃至 250 疋爆彈で 1 發命中すれば格納庫内の 25% の飛行機を使用不可能ならしめる。水道は幹線部を狙つて延期爆發の 100 疋爆彈を、貯水池堰堤には 500 疋爆彈以上のものを用ひて破壊を企圖する様に謂つてゐる。空襲目標と之が爆撃に用ひる爆彈の大きさは大體以上の様である。

1. 時期

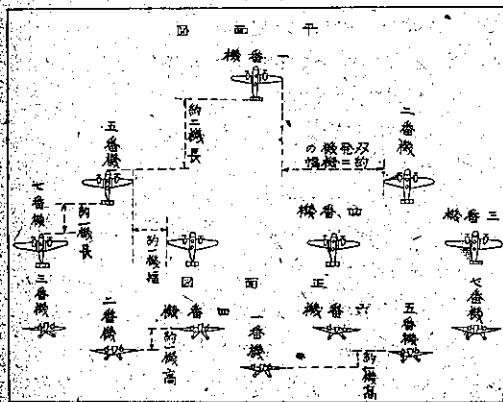
空襲は開戦と同時に始まるか又は宣戦なしに空襲を以て戦端を開く。空襲の時刻は初めは晝間爆撃が多く一舉に織滅する方法を取るが、晝間爆撃をやつてゐる間に爆撃経路、氣象、敵國の状況に順馴すると、敵の防衛も整備して來て晝間空襲では味方の被害が多くなつて來るので夜間爆撃、拂曉爆撃が段々多くなつて來るのである。而し孤立してゐる重要發電所及橋梁等比較的小さな目標には夜間は命中率が非常に小さいので晝間に必中を期する様な爆撃法を採るのである。

2. 編隊

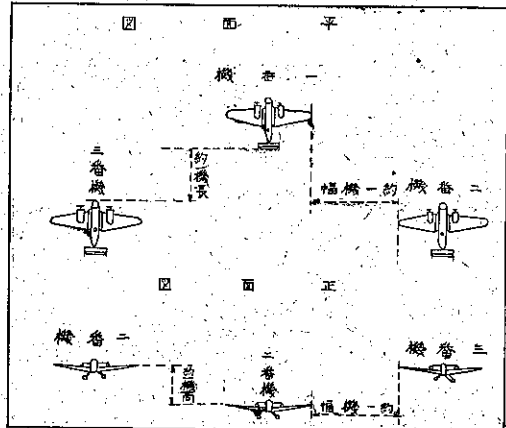
近距離爆撃には輕爆編隊で遠距離爆撃には重爆編隊で空襲するのを常とする。重要都市を同時に空襲する機数は通常數十機なるも、時として集團威力を發揮する爲に數百機の編隊を組むことがある。又奇襲的に十數機で空襲する場合もある。夜間は通常十數機の編隊で1回乃至數回の波狀攻撃をする。爆撃機編隊の一例を圖示すれば圖-1の様である。

圖-1. 爆撃機編隊の一例

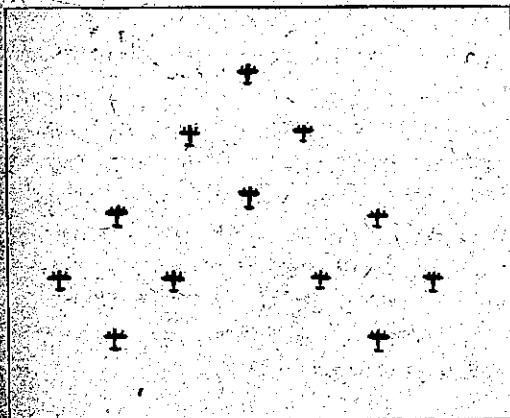
輕爆撃機の基本隊形



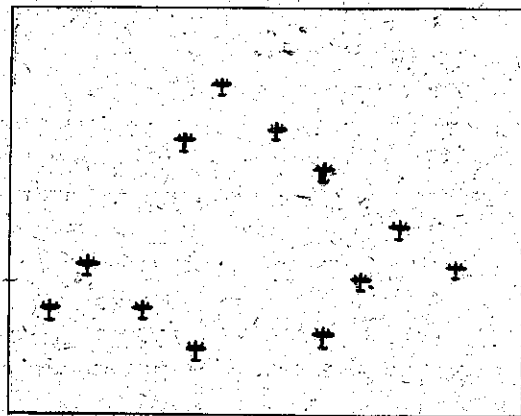
重爆撃機の基本隊形



菱形中隊の楔狀隊形 (大隊爆撃隊形)



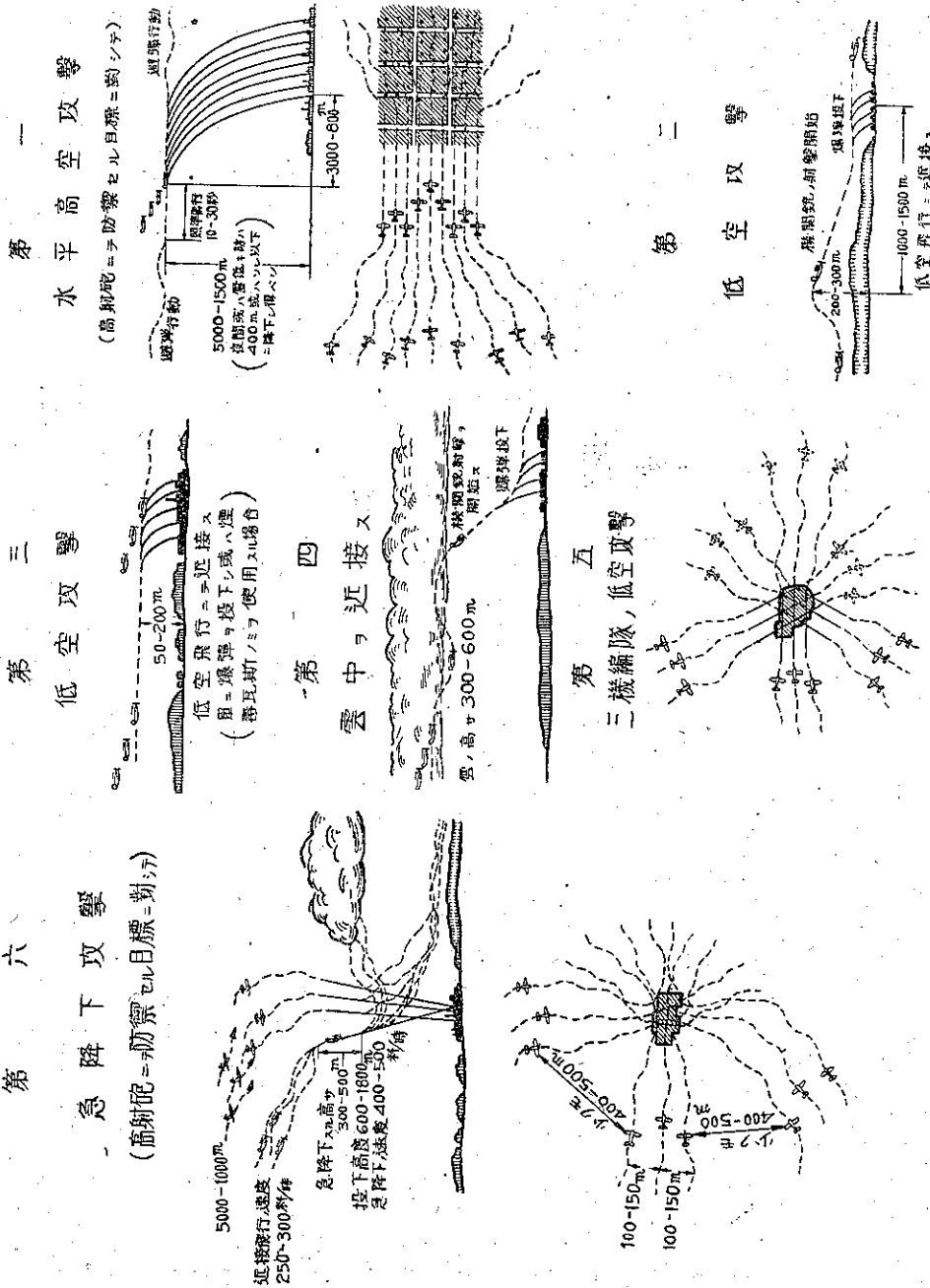
楔狀中隊の楔狀隊形 (大隊爆撃隊形)



3. 高度

空襲の高度は高射砲の射撃其他の関係にて逐次高い高度を採用する傾向がある。大體都市空襲には4000米から8000米位であるが、孤立の要點等を爆撃する場合には2000米から3000米である。夜間は2000米から6000米位であるが、一般には確然と區分せられるものではない。

圖-2. 爆撃の要領



4. 爆撃方法

空襲の経路は基地より概ね真つ直に飛翔するも、場合によつては迂廻して敵を偽備しながら目標に接近することもある。「ラジオビーコン」の發達してゐる現今では、之を利用して目標に接近し、又は陸地の誘導目標を辿つて目標に接近する。目標附近に到達すると、其儘の隊形で全爆撃隊が一緒に集團で地域爆撃を実施することもあり、又都市の周邊で大編隊を解いて四方八方から小編隊で侵入し各々命令せられた目標を爆撃する。爆撃の方法は水平爆撃、急降下爆撃、低空爆撃があり、水平爆撃は高度概ね 1000 米以上より、低空爆撃は多くは 50 米乃至 200 米の高度より爆撃する。是等爆撃の要領を圖示すると 圖-2 の様である。

5. 照準

飛行機から目標を狙ひ投擲する場合には照準具を用ひる。機上で目標を照準して爆弾を投下する迄に要する時間は 30 秒内外で少くも 10 秒は必要である。今飛行機を時速 180 軒とすれば照準飛行 10 秒間に 500 米、

又 360 軒とすれば 1000 米航進することとなり、照準飛行を 30 秒とすれば夫々 1500 米及 3000 米航進することとなる。之等の關係を示せば概ね 表-1、圖-3 の如くなる。

表-1.

| 高度 (米) | 飛行速度 | | 360 軒/時 | 180 軒/時 |
|-----------|---------|--|---------|---------|
| | 區分 | | | |
| 1000 | 射距離 (米) | | 約 1400 | 約 700 |
| | 投下角 (度) | | " 54 | " 35 |
| 3000 | 射距離 (米) | | " 2400 | " 1200 |
| | 投下角 (度) | | " 38 | " 22 |
| 4000 | 射距離 (米) | | " 2700 | " 1400 |
| | 投下角 (度) | | " 34 | " 19 |
| 5000 | 射距離 (米) | | " 3000 | " 1500 |
| | 投下角 (度) | | " 31 | " 17 |

圖-3.

